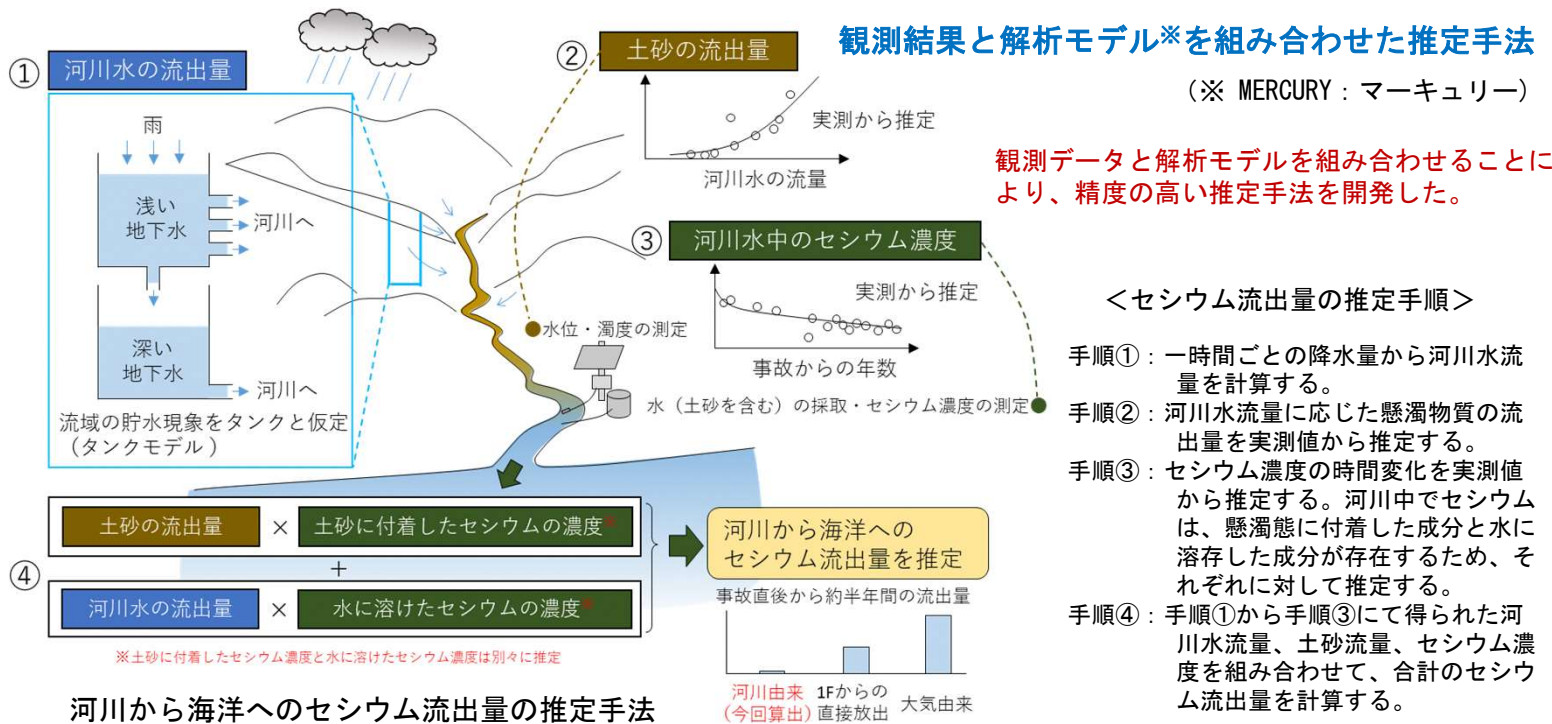


# 川から海へのセシウム流出量を算出

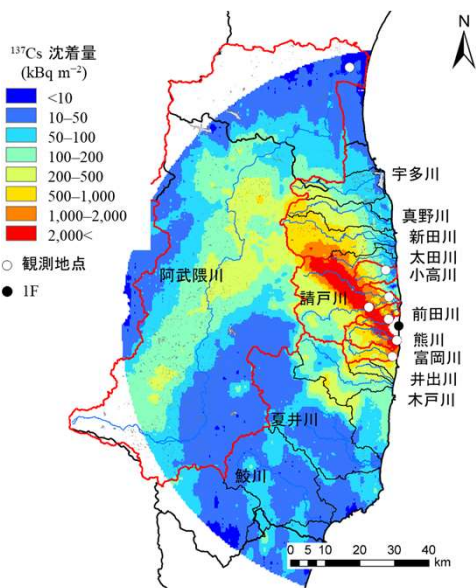
日本原子力研究開発機構廃炉環境国際共同研究センター環境動態研究グループ 佐久間一幸

- 環境中における今後の放射性セシウムの分布や移行挙動、農林水産物の濃度予測をするためには、事故直後に環境中へ放出された放射性セシウム量を精度よく推定することが必要となる。
- 本研究では、これまで推定が困難であった川から海へ流出するセシウム量を簡便に推定する解析モデルを開発した。(MERCURY(マーキュリー); Sakuma et al. (2019)、原子力機構2020年1月15日付プレスリリース)【福島大学との共同研究】
- 事故後半年間の川から海へのセシウム流出量は、東京電力福島第一原子力発電所から海への直接放出量や、大気を経由して海にフォールアウトした量に比べ流出量が2桁程度少ないことを示した。

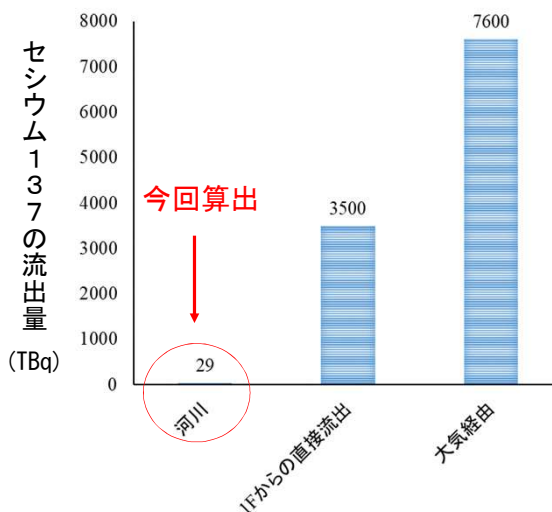
## 川から海へのセシウム流出量の推定手法を開発



## 計算対象河川



## 計算結果



事故直後から約半年間の海へのセシウム流出量の比較

複数の河川に対して、おおよそのセシウム流出量を計算ができる。また、台風など大規模出水時のセシウム流出量を瞬時に算出可能 ⇒ 自治体施策や地域住民の安心につながると期待されます。